

# 利水

## 利水の現状の課題

### ◆淀川の水の恩恵

- 水資源開発による水利用の安定化
- 淀川の水が約1600万人の暮らしを支える
- 高度経済成長を支える

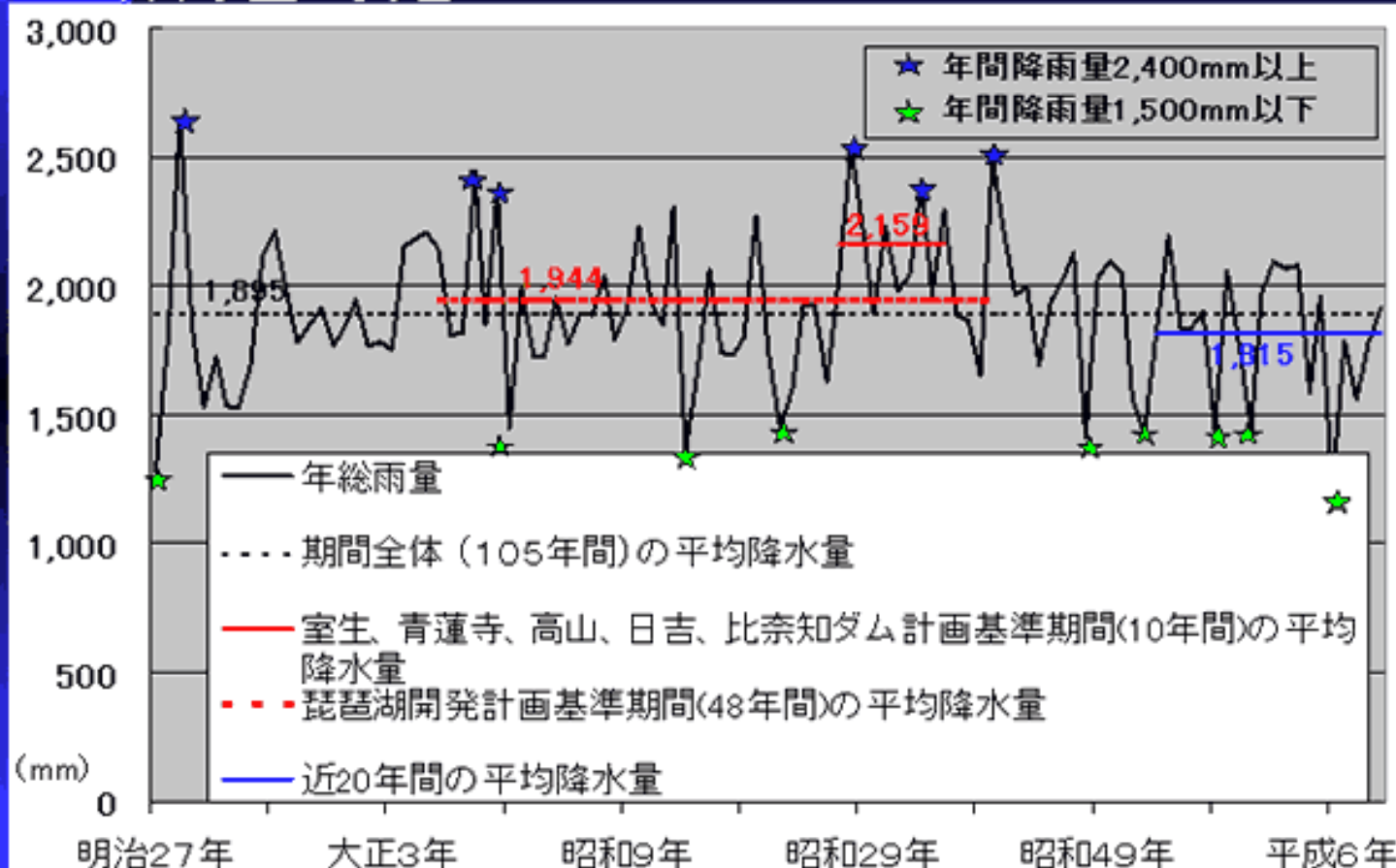
### ◆淀川の水利用の転機

- 上水道の需要増加率の鈍化
- 工業用水道の取水量減少
- 農業用水の水利用実態が変化

### ◆近年の少雨化傾向により渇水が頻発

# 利水の現状の課題

## 年降水量の変遷



# 水資源の有効活用に向けて

## ◆水需要の抑制

- 水需要の精査確認
- 協議会による抑制施策の推進

## ◆水利権の見直しと用途間転用

- 用途間転用の調整
- 農業用水の実態把握、許可水利への切替の促進

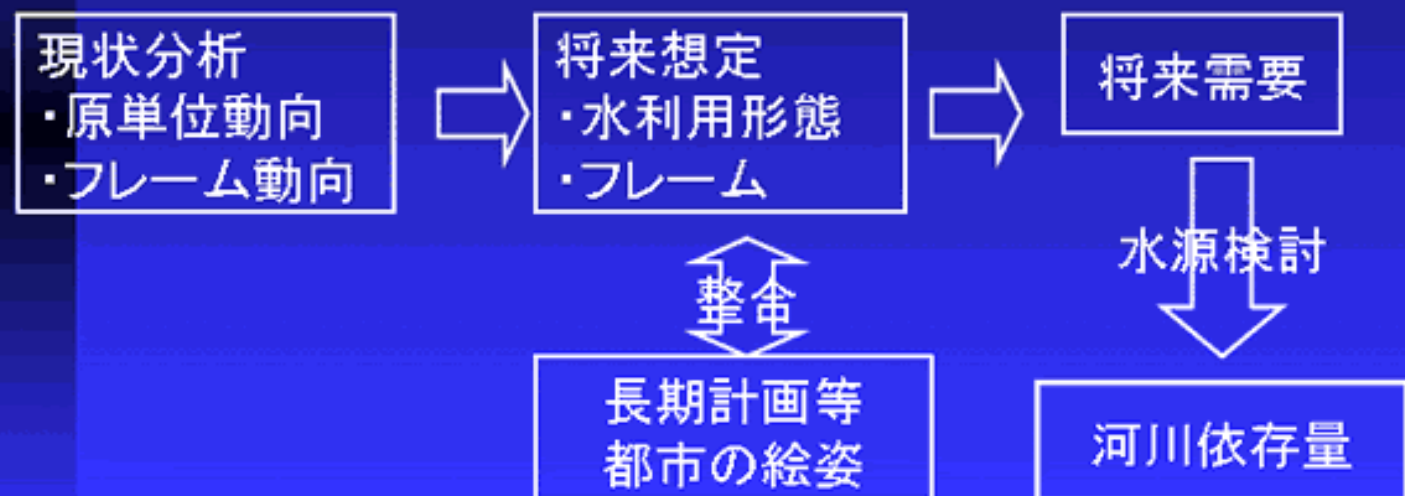
## ◆既存水資源開発施設の有効活用

- 貯水容量の効率的な再配分(再編)の検討
- 効率的運用の試行と検討

# 水需要の確認

## ◆水需要の精査確認

標準的な水需要予測の手順



図に示す水需要予測に関する情報公開の調整

# 協議会による対応



## 用途間転用の調整

水需要の精査確認を踏まえて、開発された水資源の過不足調整（淀川水系では初めての試み）

大阪臨海工業用水道：解散に向けて検討調整中  
大阪府営工業用水道 } 水需要の精査確認中  
尼崎市営工業用水道 }

その他利水者についても水需要の精査確認中

## 用途間転用の調整

◆ 利水者が、保有する必要がないと判断した水源は、一定の考え方にに基づき、他の用途に転用

○ 渇水時の危機管理に関する利水者の政策判断

○ 将来水需要における地域の安定・発展等の政策目標



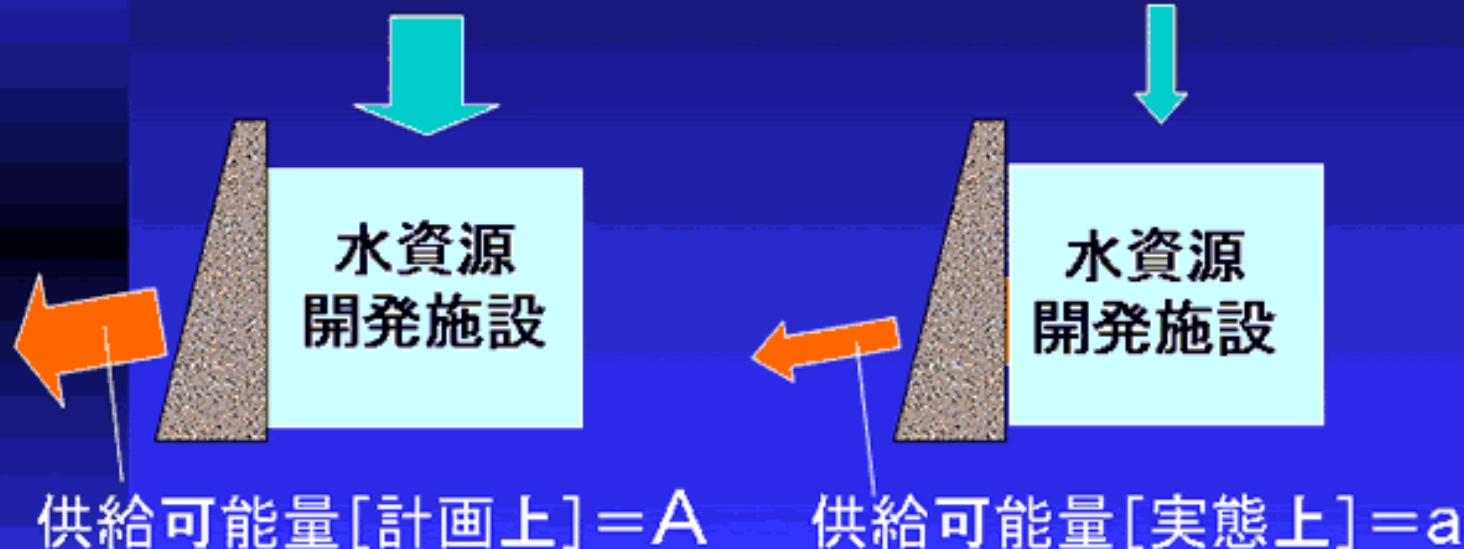
## 用途間転用にあたっての考え方

- ◆水資源開発施設が下流に供給できる水量( $A$ 、 $a$ )は、降雨( $R$ 、 $r$ )の多少により変動する。

# 供給できる水量の変化の概念

降雨量[計画当時] =  $R$

降雨量[渇水傾向] =  $r$



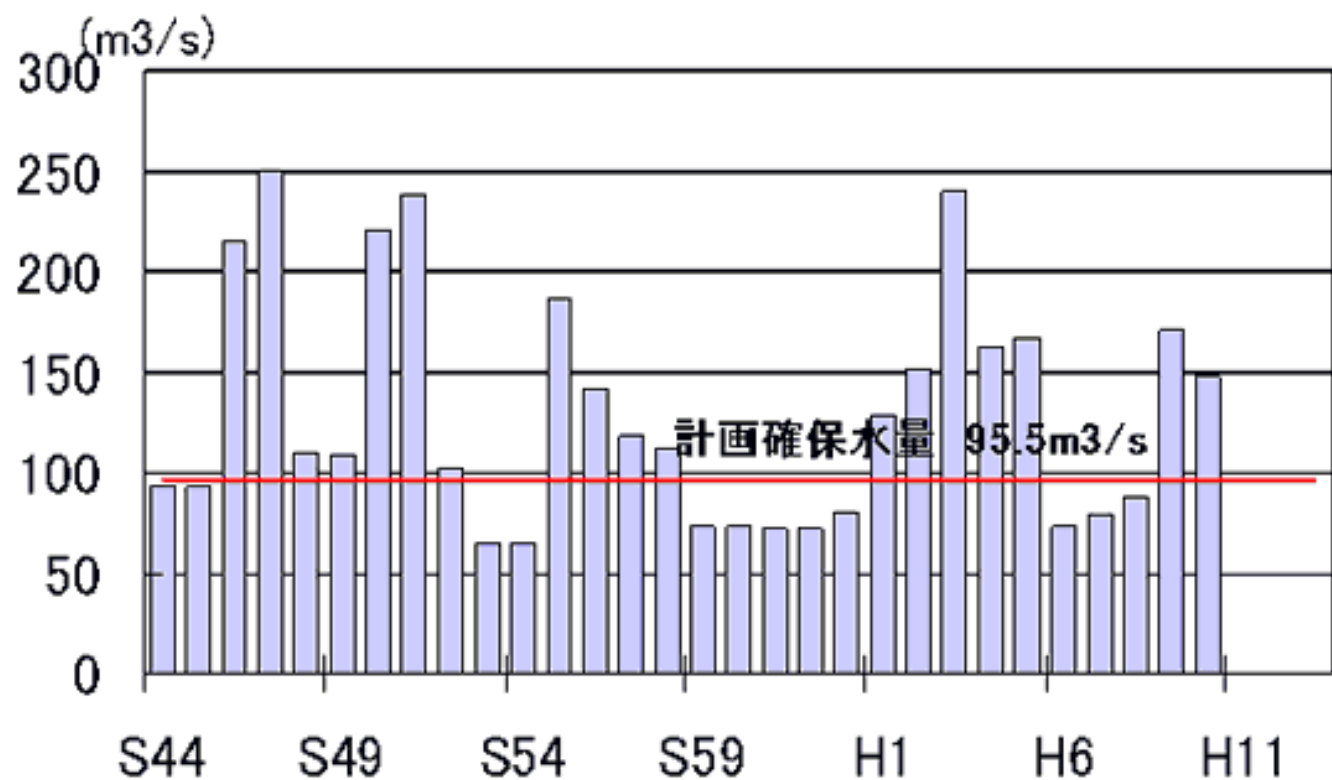
水資源開発施設が下流に供給できる水量は、降雨の多少により変動する。

## 用途間転用にあたっての考え方

- ◆ 近年30年間ににおける淀川下流の都市用水へ供給できる水量(計算条件)
  - 琵琶湖総合開発後の琵琶湖運用を前提
  - ダム等の施設は、現時点で完成しているもの
- ◆ 近年の少雨化傾向を踏まえて、**利水安全度**を考慮した水源を保有する必要があると判断した場合に、その水源は転用しない。

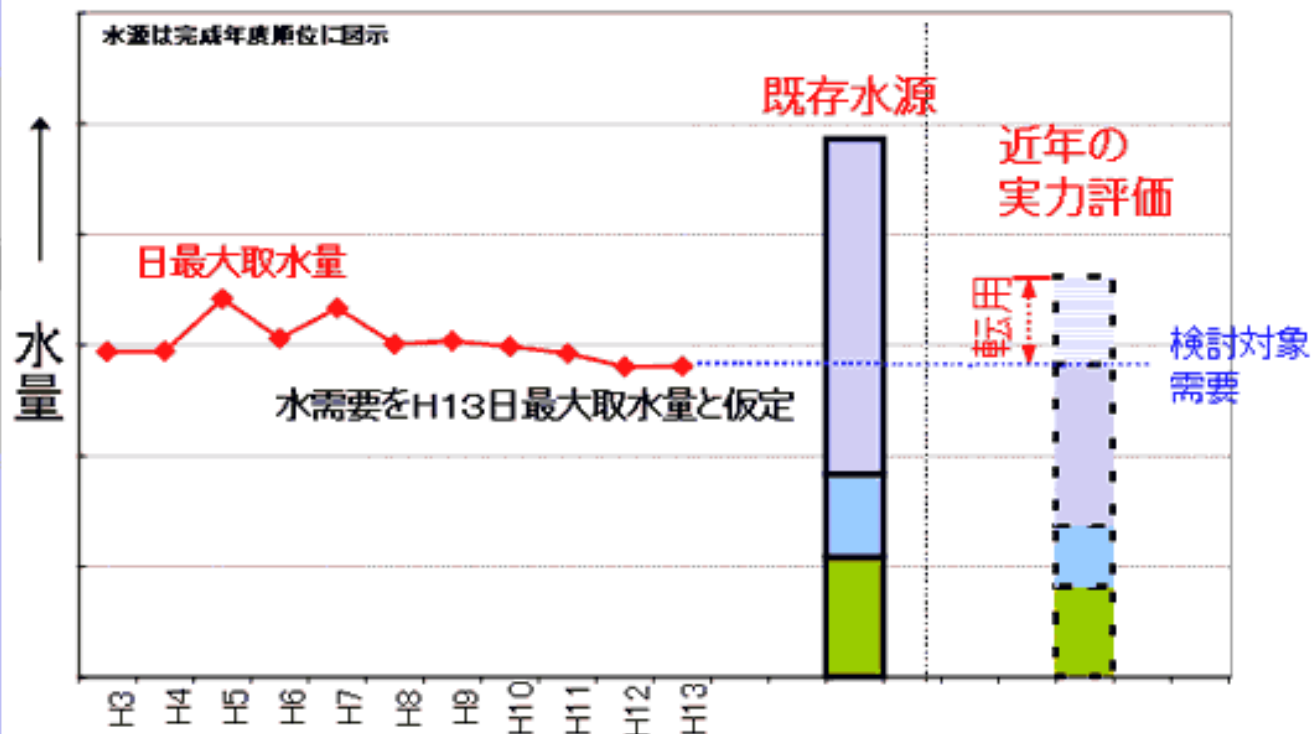
# ◆近年30年間における淀川下流の都市用水へ供給できる水量

供給できる水量



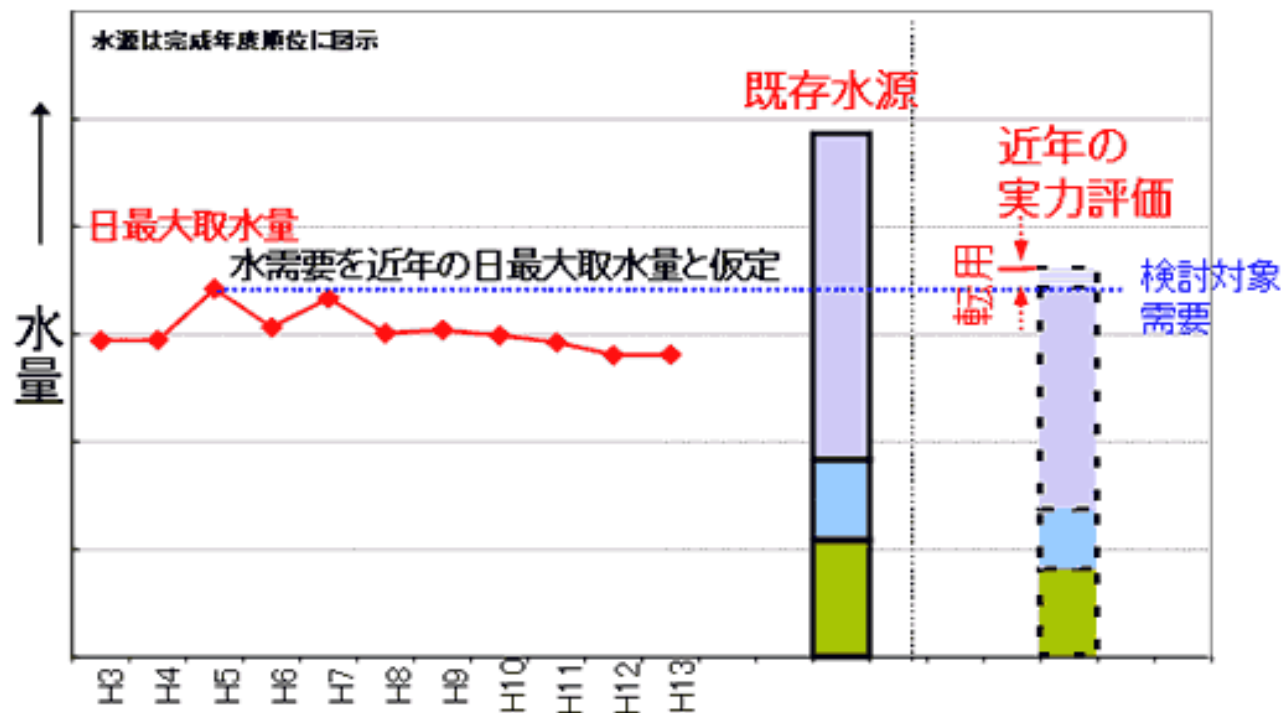
# 用途間転用調整の基本的な考え方

## ケース1



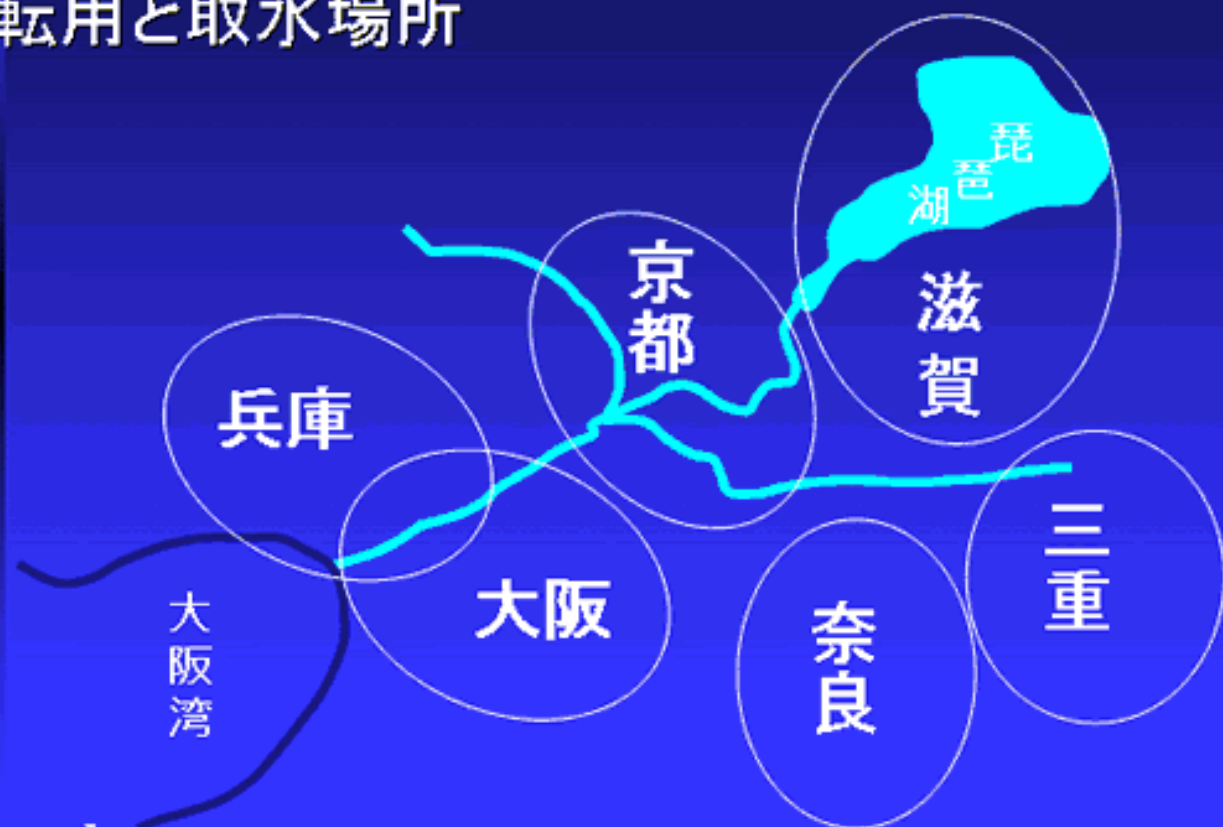
# 用途間転用調整の基本的な考え方

## ケース2



# 用途間転用調整の基本的な考え方

## ◆転用と取水場所



◆農業用水の実態把握、  
許可水利への切替の促進

- 実績取水量把握に向けた支援の検討
- 許可水利権への切替に向けた指導強化
- 地域の水環境（環境用水、防火用水等）に関する要望への配慮